



食品のボイル、冷却、洗浄など食品加工の装置開発と製造で、取引先から高い満足度を得ている細田工業株式会社。同社はプロフェッショナルな加工製品を製造する企業として、食品業界から高い信用を得ている。また経営陣は、情報セキュリティ対策の強化にも前向きで、同社のシステムサポート部門が提案したSophos Managed Detection and Response (MDR) セキュリティサービスを契約し、安全性の向上と運用負荷の軽減を実現した。

CUSTOMER-AT-A-GLANCE



細田工業株式会社

所在地 本社 大阪府八尾市太子堂2丁目2-38

WEBサイト <https://www.hosoda.jp/company/>

ソフォスソリューションズ Sophos MDR Complete



ソフォス社の提供するMDRセキュリティサービスならば、投資する価値があると判断しました。

細田工業株式会社
システムサポート部門
雑賀氏

1946年に小型製パン窯や麺類の湯せん釜などの製造で創業した細田工業株式会社。同社は大阪の本社を中心に、関東や韓国にも支店を構え、カット野菜や食品加工に麺ラインなどの装置開発で、高い信頼と実績を誇る。同社の情報セキュリティ対策を担うシステムサポート部門では、国内でも増加するサイバー攻撃の増加に対抗するために、遠隔による包括的なセキュリティ監視を24時間365日で提供するSophos Managed Detection and Response (MDR) セキュリティサービスを契約した。

ビジネスチャレンジ

「Sophos Intercept X Advancedへの更新でMDRセキュリティサービスを認識」

細田工業株式会社のシステムサポート部門が、Sophos Managed Detection and Response (MDR) セキュリティサービスを導入したきっかけについて、同部で情報セキュリティ対策に取り組んできた雑賀氏は、次のように切り出す。

「2021年までは、サーバー/クライアント型のエンドポイントセキュリティ製品を導入していました。しかし、その製品にはいくつ

かの問題がありました。まず、パターンファイルの更新が必要だったので、脅威が増している最新のサイバー攻撃を防ぎきれぬのか心配でした。また、パターンファイルの更新は、社内のネットワークにPCが接続されているときしか行われないので、出張などで持ち出されてしまうと、マルウェア感染のリスクが増加していました。これらの問題に加えて、その製品の日本法人がなくなると聞き、早急に更新が必要となりました」。こうした背景から、雑賀氏は未知のサイバー攻撃にも高い防御性能を発揮できるエンドポイントセキュリティ製品のリサーチを開始した。そして「日本も含めてグローバルに

対応し、AIによる高い検知と防御性能を備えたSophos Intercept X Advancedに注目しました。そこで、ソフォスの製品を取り扱っている日本企画様に相談して、検証をスタートしました」と雑賀氏は話す。

テクノロジーソリューション

「一般的なSOCと比較して高い信頼性と安心感を得られるMDRセキュリティサービスを選択」

2021年の9月に旧エンドポイントセキュリティ製品のライセンスが終了するのに合わせて、システムサポート部門では全社のサーバーとクライアントPCに、Sophos Intercept X Advancedを導入した。雑賀氏は「当社の経営陣は、情報セキュリティ対策の強化を前向きに評価しているので、Sophos Intercept X Advancedへの更新を提案すると、その日のうちに承認されました。そして、導入から半年ほど経ったところに、ソフォスのメールマガジンでEDR(当時のMDRの呼称)サービスの

日本版がスタートするという案内を目にしました。そこで、どういうサービスなのか理解を深めたかったので、すぐに日本企画様に連絡しました」とMDRセキュリティサービスを知ったきっかけについて振り返る。システムサポート部門では、情報セキュリティ対策を強化するために、外部のSOCサービスを比較検討していた。その経緯について雑賀氏は「何社かにサービス内容の詳細や見積もりを依頼したこともあります。しかし、多くのSOCサービスでは、対応している顧客企業名はもとより、サービス内容や対応実績などが機密情報にあたるとして、ほとんど開示してもらえませんでした。サービスの実績や対応の信頼度も推し量れないSOCサービスに、数百万から一千万を超える金額を支払うのは無理でした。それに対して、Sophos Intercept X Advancedで製品の性能を実感しているソフォス社の提供するMDRセキュリティサービスならば、投資する価値があると判断しました」と話し「MDRに関する稟議も、その日のうちに経営陣から承認が降りました」と迅速な決裁だったと語る。

ビジネスインパクト

「包括的なセキュリティ監視による24時間365日の安心を実感」

Sophos Managed Detection and Response (MDR) セキュリティサービスが選ばれた決め手について雑賀氏は「セキュリティ監視の対象が、Sophos Intercept X Advancedだけではなく、以前から導入しているSophos Email Securityなどに及んでいる点を高く評価しました。」

また、Sophos Intercept X Advancedを導入しているPCであれば、クラウド経由で遠隔監視が可能になるので、これまでに比べて社外への持ち出しPCの安心感が大きく改善されます。そして、24時間365日の監視体制で、仮に外部からのハッキングがあったとしても、遠隔で検知して対応してもらえる安心感が得られます。ランサムウェア対策についても、検知だけではなく、遠隔での除去と可能な限りの復元も行ってくれるので、経営陣もMDRに投資する価値があると判断したと思います」と説明する。

2022年の6月からMDRセキュリティサービスの利用を開始した雑賀氏は「導入から半年以上が経過しましたが、驚くほど平和な運用を継続しています。たまに、ローカルのファイルに怪しいものがある、というアラートがメールで通知されるのですが、実害には及ばず、きちんと監視してもらっているのだと実感しています。この半年でも、インシデントが発生していないので、MDRサービスのポテンシャルを評価するのは難しいですが、セキュリティ対策の担当者としては、これまで以上に安心できる監視体制を得られたことが、最大の成果だと受け止めています」と評する。

フューチャービジョン

「Sophos製品へのさらなるワンストップサービスを期待」

今後に向けた取り組みについて雑賀氏は「情報セキュリティ対策に関するソフォス製品とMDRサービスには、とても満足しています。少し欲張りだとは思いますが、ソフォスの優れたセキュリティ技術を活かして、今後は情報漏えい対策などの機能やサービスも提供してもらえたらと期待しています」と話し「MDRサービスで監視してもらっているソフォス以外の製品やデバイスに関しても、ソフォス製品に入れ替えることで、より強固で信頼できる安心が得られるならば、積極的に検討していきたいと思います。そうした最新の情報やサービスに関しても、ITパートナーの日本企画様から教えていただければと願っています」と語る。

